

風まち・潮まち・港町

御手洗 重伝建地区選定20周年記念号

みたらじ通志

町並み保存地区「御手洗」情報誌

- 20周年記念号に寄せて
- みたらじ句集
- 御手洗が生んだ冒険家
「中村春吉」伝説
- 「重伝建を考える会」20年の歩み
みたらじ通志
バックナンバー

〔特集〕

みたらじ昭和へソ時代

- 特別企画 「昭和30年代」想い出マップ

●昭和30年代、御手洗人(ビト)の思い出アルバムから

●みんなで語った楽しかったあの頃

重伝建を考える会



重伝建

みたらい通志
2014.3 NO.20

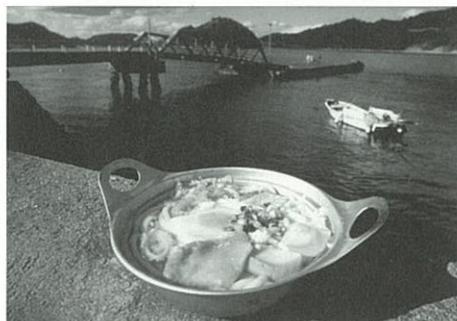
● 発刊にあたって

ながらくお待たせしました。「みたらい通志」第20号をここに発刊します。御手洗が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されて、今年でちょうど20年。選定とともに発足した「重伝建を考える会」も同じく20周年を迎えます。この節目の年に、長く休刊となっていた「みたらい通志」、それも20号を上梓できることは、何か宿縁のようなものを感じずにはおられません。

御手洗を守り育ててきた諸先輩方が、ひときわ愛情を注いで作つてこられ

た「みたらい通志」。この「20周年記念号」で懐かしい時代の空気感を存分にご堪能ください。

最後に、発刊にご尽力戴いた関係諸氏、記事や写真収集にご協力戴いた皆様方に、心よりお礼申し上げます。（重伝建を考える会 会長 尾藤良）



1996年、重伝建地区選定記念のモニュメントを建立。1991年の台風で破損した太鼓橋の石を利用。シンボルマークは常盤通りの町家にした。

(写真上) 御手洗の虫籠窓。1994年、重伝建になつて間もない頃。修復前の常盤通りで撮影した白壁が剥がれた町家のたたずまい。これはこれで味があつた。

(写真中) 御手洗の鍋焼うどん。2001年取材でみはらし食堂を訪れた。名物の

鍋焼うどんを桟橋をバックに撮影。

(写真下) 御手洗の提灯。1996年の櫻祭り。祭礼団の提灯は朱色の三本ラインと勘亭流のよくな文字。江戸の意匠が生きている。

〔特集〕

みたらし 昭和へソ・い 時代

みんなが残した路地裏グラフィティ

重伝建メンバー有志の
古いアルバムから抜粋した
昭和30～40年代の記録
思い出(タテ組)が入っています。(編集室)

あの日にぎわい
懐かしい笑顔
焼玉エンジンの音
海の見える町で
僕らは育った。

サンマに乗って水あそびをして
いた頃。小路で六ムシや石けりを
していた頃。蛭子神社で盆踊りを
していたあの頃。

まだ県道ができる前。昭和30年
代。そこには真っ黒に日焼けした
御手洗の子どもたちがいた。お祭
り好きで、人懐っこくて、陽気な
御手洗人(ビト)がいた。

瀬戸内海のヘソ(真ん中)といわ
れる御手洗。今回のみたらし通志
の特集は、昭和のヘソ、すなわち
昭和30年前後の懐かしい御手洗の
写真をご紹介。まだ、重伝建地区
に選ばれるずっと前、キラキラし
た時代がそこにはあった。

荒神さんの祭りで
「御手洗とんど」があった。
「田丈」の前のだで場で燃やした。

昭和40年頃から「ながめ」が
海水浴場となつた。
夏には桟敷が立てられた。



住吉さんの境内では、
よく大漁旗が
干してあつた。

御手洗のシンボル、高燈籠の袂にある
住吉神社の太鼓橋。みんなここでよく写
真を撮つた。昭和38年頃。

みんなで「ながめ」で泳いだ。
海で食べるスイカが楽しみだつた



昭和30年代末から
「ながめ」で水泳の
授業があつた。



昭和43年頃の「ながめ海水浴場」。字
名は蒲野(かもの)だが、御手洗の人はみ
んな「ながめ」と言つてゐた。



海水浴の帰り道、蒲野にて。昭和42年頃。
向こうに見えるのが千砂子波止。

昭和45年頃の「ながめ海水浴場」。
夏休みは多くの人が賑わつた。



小学生のとき
「大波止」で
アベックを
見かけると、
キスしないか
隠れて様子を
見ていた。

昭和42年頃。大波止（千砂子波止）の
灯台をバックに記念写真。らせん階段の
ような灯台は御手洗のランドマークだった。

サンマと呼ばれた小舟で向いの岡村島まで渡った

住吉神社前の水泳大会。
昭和38年頃。この頃は現
在のような雁木はなかった。

昭和32年8月。木村旅館の前で、子ども
用ボート「サンマ」に乗って遊ぶ子どもたち。



三枚（サンマ）とは
三枚の板で出来ていてるから
この名がついたという。



船のスクリーの
後ろでは
流されるのが
面白く
桟橋から
飛び降りて
よくおこられた。

昭和48年8月。木村旅館の手漕ぎボート。
「みたらい号」と名前がついている。



大波止と小波止の間で
水泳大会があった。
レーンが張られ本格的だった。



屋道行の
「富士丸」は
船に拡音器を
付けて
田端義男の
「おちよる船」を
流していた。

まだ屋根があった頃の御手洗桟橋。
船の時間になるとたくさんの人が
集まつた。昭和35年頃。



御手洗港に停泊中の広島～今治間を
結ぶ定期船「えんぜる」。「ぶりんす」と
交互に運行していた。昭和45年頃。

木村旅館前の雁木に
桟橋があつた。
小さな弊船橋が
ふたつあつて
屋根付きの桟橋を
横に向けていた。



昭和35年の御手洗桟橋。まだ県道
もなかった。写真中央に見える建物
はみはらし旅館(食堂)。店の前には
雁木があつた。

いくつもの航路があつて 船の到着が「時計代わり」になつた



県道が出来たころの御手洗港。
この頃には浮桟橋の屋根もなくな
った。昭和42年頃。

港にお迎えに行つた
桟橋は多くの人で
賑わつていた。

記念すべき 重伝建二十周年

今崎仙也



「元気な若い世代が現れて嬉しい」と語る初代重伝建会長の今崎氏。



橋祭りの日。木村旅館の路地で自転車のリアカーに乗せてもらっている子どもたち。昼間のやぐらに行くのだろうか？ 当時は自転車の横に荷台が付いたタイプがあった。

あれから20年！ 希望に満ちた日々、充実したその当時を想えば感無量です。御手洗が重伝建地区に選定される情報が飛び込んできたのが平成5年4月頃。伝建地区選定によって「我々住民で何かが出来る！」直感的にそう感じたのでした。御手洗重伝建地区担当として採用された広大卒建築士の岡本千穂氏（旧姓土肥）、教育長の真田幸隆氏、産業課観光担当の里信真由美氏。一方郷土史家であり御手洗観光に情熱を燃やし「もてなし」の心を後輩に伝えてきた木村吉聰氏、町会議員兼町内会長の福島光重氏。そして斬新で人との交流・行動力旺盛な男、長浜要悟氏とその同級生の皆さん。行政と地域住民（重伝建を考える会）が強い絆で結ばれた事が今の御手洗を創り上げたのだと言つても決して過言ではありません。

記念すべき輝かしい20周年を迎える。異なる飛躍を目指すため、現状の過疎少子高齢化地域「御手洗」をどのように方向づけるか、何を生かすか



「田阪歯科」では節分の夜に
子どもたちを集めて
豆まきをした。
お菓子も一緒に捲いた。
ジャンケンで勝つと
リングがもらえた。

御手洗の風物詩、「田阪歯科」の節分風景。羽織袴でお多福のお面をつけているのが田阪の先生。昭和42年頃。

歌いながら仮装パレードで会場に乗り込んだ



昼の櫓回しの巡行では、
櫓を下ろした前の
家から酒などが出た。
家によつて出すものが決まっていて
「吉梅」と「御手洗鉄工」はラムネだつた。

昼間の子ども櫓は御手洗の子どもたちを載せ、細い路地を引き回す。昭和42年頃。



町民運動会、蛭子区の
パレード。相生通りの新
光時計店前を過ぎた辺り。
さくら湯の看板も見え
る。昭和45年頃。



昭和30年代、学芸会や卒業式は御手洗会館
(現在の若胡子跡)であった。学芸会の後、
子どもたちは裏庭で先生と一緒に記念写真。

櫓の担ぎ手は

前側がO.B、
後ろ側が祭礼団。

前側はいつまでも
やりたいから

抑え気味に進み、
後ろ側は

早くやめたいから
前に向かつて突く。

そのせめぎ合いがあつた。



櫓祭りは御手洗の夏の一大行事。ふるさと
を離れたものもこの日はみんな帰ってくる。「鞆
田」の家の前で恒例の記念写真。昭和37年。



2014(平成26)年2月、柴屋住宅より
郵便局のあった常盤通りを見る。



昭和32~33年頃、常盤通りにあった
御手洗郵便局(現、農協跡)前。後
列中央の男性が若かりし頃の今崎氏。

そして最後はやっぱり「御手洗に住
んで良かつた」と思える地域づくりを
みんなで創っていきましょう。
(いまさきせんや 御手洗在住)

構築していきたいものです。
「安心・安全・楽しい御手洗」を
持ちながら「福祉の御手洗・防災
の御手洗」といわれる先進地を目指
し、「安心・安全・楽しい御手洗」を

を考えいかねばなりません。そ
ためには一番大きな年齢層である高
齢者が結束して動く。そうすれば御
手洗が変わると信じます。個人一人
ひとりの力ではなかなか動きません
が、強い絆で結ばれた組織で動けば
力は倍増します。すなわち、御手洗
自治会を中心に「重伝建を考える会」
や高齢者の会「常盤会」等の諸団体が
それぞれの特徴をフルに生かし、連
携を取りながら行政とも強い絆で結
ばれることです。そうして協働交流
を持ちながら「福祉の御手洗・防災
の御手洗」といわれる先進地を目指
し、「安心・安全・楽しい御手洗」を

石

に

護

ら
れ
た

町

まも

● 20周年記念号によせて その② 御手洗と私

榎本登始雄

江戸期より、御手洗はその
発展のため、海を埋め立て、
波を防ぐ石垣を築き、港に
は大きな雁木をつくった。
潮が引くと先人がつぐった
見事な石組みが現れる。

御手洗を出て50年。10年はひと昔
と言いますが50年は半世紀。今年3
月で66歳になりますが、この年にな
つて初めてわかることもあります。
それは良いときに、良い場所に両親
が私を生んでもくれたということです。
まさに「天の時！地の利！」を得て生
まれたと思うわけです。

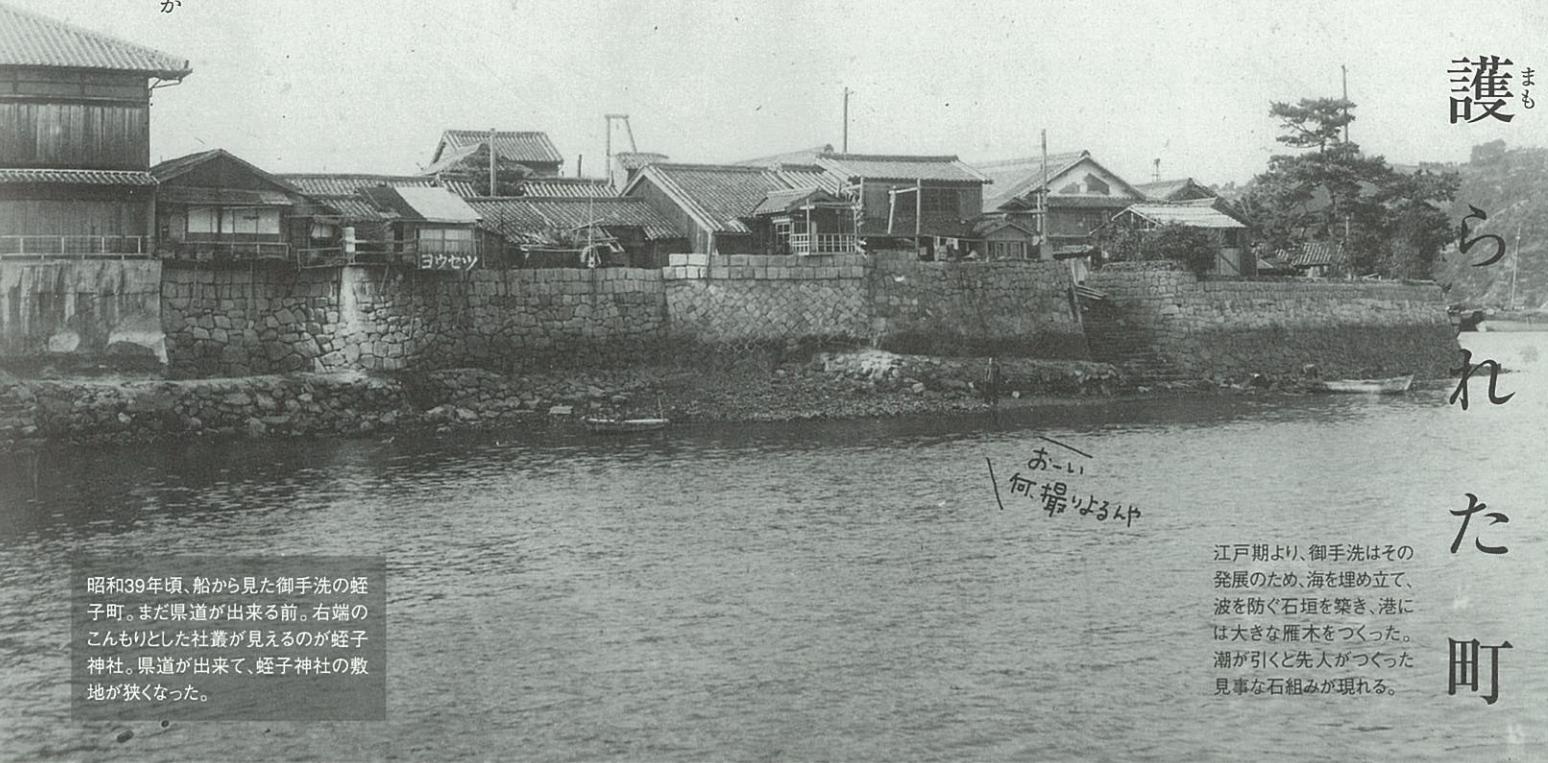
私の両親の時代は戦争がありまし
た。私たちが生まれたのは、♪戦争
が終わってえく僕らは生まれたあく
♪の時代です。「私は本当にツイてい
る」と、今改めて感謝しています。

私が思うに御手洗も今は呉市(なん
かこの呉市が私にはピンと来ません、
豊田郡豊町御手洗の方がブランド力
が有る)ですが昭和30年代は身近か
な都市は今治だった気がします。

毎日渡海船が、豊島から1便、大
長から2便、日用品を運んでいまし
た。冷蔵庫などまだ夢の又夢の時代
です。生鮮食料品や病院通いも、客
船より料金の安い渡海船が今で言う
の勘では当時の今治は松山より活気
があった気がします。映画館も5軒
あり、映画館の件数が町の活気のバ
ロメーターランクだった時代です。今では
見る影もありませんが、桟橋のキワ
盛り上がった。

まだ県道が出来る前
蛭子神社の境内で

益踊りがあつた。
昭和40年代後半からは
御手洗小が会場になつたが
やはり蛭子神社の方が
盛り上がつた。



昭和39年頃、船から見た御手洗の蛭子町。まだ県道が出来る前。右端のこんもりとした社叢が見えるのが蛭子神社。県道が出来て、蛭子神社の敷地が狭くなつた。

正月には路地の四つ角で
「さくら湯が沸きました」

と拍子木を打ちながら
おらび回っていた。

湯船の浅い大風呂と
小さな水風呂があつた。

おらび回っていた。
湯船の浅い大風呂と
小さな水風呂があつた。

右写真と同時期に撮影された写真。
写真中央が木江警察の御手洗駐在所。
左手が大東寺。中央の煙突はさくら湯。
昭和30年代末には、ここ一軒のみだった。
昭和45、46年まであった。

まで連なる商店街が往事を偲ばせてくれます。私は今治への思い入れがなぜか強く、高校野球も今治の高校が出るとなぜか応援します。

私の学年は昭和22年4月1日～昭

和23年3月31日までに誕生した日本で一番人口の多い時期の学年でした。

当時は小学校の出席番号は生まれた順でした。4月生まれが一番早く、3月1日生まれの私の前が2月27日

のター君。その前が23日のヨー君。

私の後ろは3日のとしお君と、狭い御手洗にこのベビーラッシュです。

今では考えられません。幼稚園から1学年1クラス、まるで兄弟のような同級生たちと豊中学校になるまでの中学1年の1学期まで、御手洗小中学校に通いました。

瀬戸内海は日本の宝と思うくらいです。船大工さんに作ってもらつた先祖代々のサンマ(子供用小型ボート)などに乗つて一日中遊んでいました。ちなみにター君は泉万の忠雄君、とお君は船具店の利男君、ヨー君はみたらし通志、重伝建便りを送つてくれた長新呉屋の要悟君です。

(えのもととしお 山口県在住)



昭和35年、榎本氏がいた御手洗小学校の卒業写真。ちょうど戦後の第一次ベビーブームの頃。「団塊の世代」とも言われた。
(写真はみたらし通信No.2より)

特別企画

みんなで語った
昭和30～40年代の

昭和時代 想い出マップ

このマップは、
昭和30年後半、
まだ県道ができる前の
御手洗を再現した
マップです。
(編集室)



住吉神社

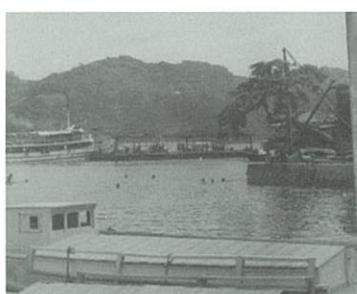
あの頃、いったい何をして遊んだかなか?
祭りのこと、運動会のこと、盆踊りのこと。
昭和10年～33年生まれ11名が集まつて
楽しかった当時の想い出を語りあつた。

みんな幼く、輝いていた少年時代。
あの日、あの頃をマップにしてみた。



いくつも航路があった

●30年代末頃は、「木村旅館」の前の雁木に
桟橋があった。2個、小さな繫船橋があつて、そ
の先に屋根つきの桟橋を横に向けて繋いでいた。
●いくつも航路があつて、多くの船が着いた。
「○○丸が着いたら○時」という風に、船の
到着が「時計代わり」になった。●「富士丸」
(御手洗～尾道)は船に拡声器を付けて、よく
田端義男の「おちょろ船」を流していた。



たで場沖で泳ぐ子どもたち

フランス屋

●天神の子は「田丈」
(現「御手洗休憩所」)
前のたで場で泳いだ。
●蛭子の子は蛭子神
社前の雁木で泳いだ。

●「木村旅館」前の倉庫では、
よく「かくれんぼ」をして遊んだ。

弁天町

学芸会や卒業式

●学芸会や卒業式は、「御手
洗会館」で行つた。学芸会で
は、裏座敷が着替え場所となり、
出し物が終わると、扮装のまま
裏庭で記念写真を撮つた。



御手洗会館

●「川田」ではパチンコとスマート
ボーリを置いていた。開店の30
分前くらいは、子どもたちにも遊
ばせてくれ、キャラメルをくれた。

●「フランス屋」の三角パン(食
パンを三角に切ってジャムなど
をはさんだもの)がうまかった。



御手洗会館

現・若胡子屋跡

天満宮

御手洗会館

常盤通り

川田

相生通り

相生町

木村旅館

常盤町

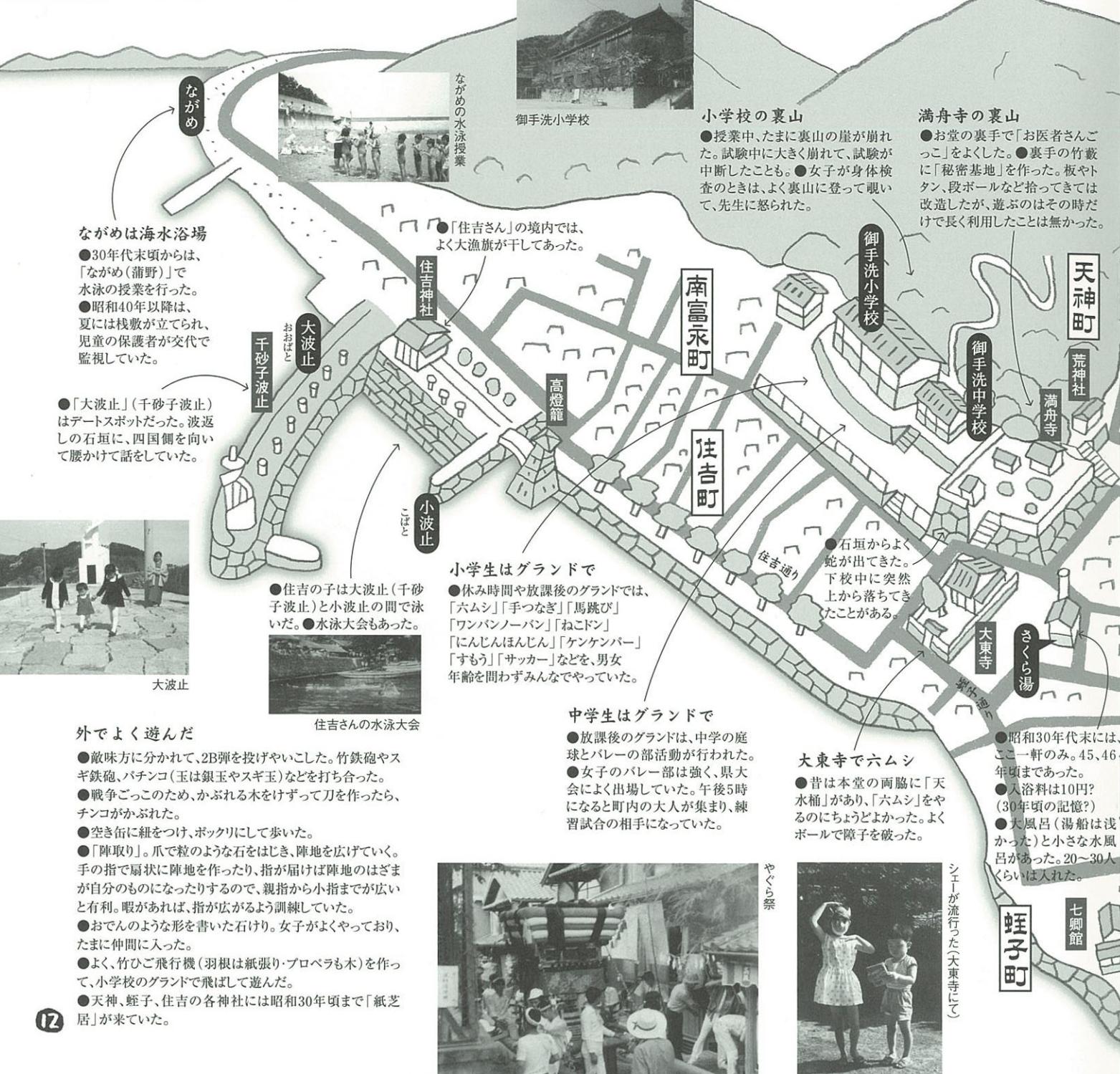
御手洗港

御手洗

御手洗港

御手洗

御手洗</p



みたらし句集

二十一

みたらし句集20選

みたらし通志20号を記念して、
創刊号から続いていた俳句のページを再現。

今回の20選は、重伝建を考える会のメンバー及び
お世話になった関係者の中から
一句ずつ厳選し、掲載いたしました。(編集室)

芽起しの雨つやつやと芭蕉塚

吉聰

柴屋から忠敬偲ぶ梅の花

橋翁

伝建の修復終えて春立ちぬ

杜久鳴

笹やぐらかつぐ若衆に乙女酔う

一士

初春や観音崎に朝日かな

名無子

花菜風入れて一人の島のバス

紀久子

山笑ふ瀬戸内の海従えて

良

古写真の天神桜の宴眩し

一曉

晩秋のまた一つ空家先想う 征之

小すだれに活けし蠟梅香り立ち 恒美

源氏名のつづく玉垣春時雨

光重

汎へ返る風待つ船はその昔

仙也

春愁やただただ灯る高燈籠

明

西日受く壁に禿の手形あり

義信

菩提所の風透きとほる若楓

孝美

春霞白いベールの石鎚山

柑美

潮待ちの舟懐かしみ春の海

麦の酒

下萌の秘めたる力五輪燃ゆ

宗寿

夜桜やしの笛ひびく天満宮

桜景

木枯しにふじのさよなら念佛す 要

昭和20年代後半の御手洗港

この頃まだ桟橋に屋根がなかった。停泊している
のは今治一宇品間の定期便。手前は油船。左手
の島は平羅島、真ん中が小島、右端は岡村島。



Harukichi
Nakamura

御手洗が生んだ冒険家

「中村春吉」伝説

日本初、自転車での世界一周無錢旅行を成し遂げる

御手洗に伝説と

なっている一人の

冒険家がいた。

1902年(明治35)、

なんと一年半かけて

自転車で世界一周の

無錢旅行を敢行した

中村春吉がその人だ。

明治から大正・昭和

そして平成の今、

そのレジエンドが

再び明らかになつた。

御手洗を 自転車乗りの聖地へ

サイクリスト

2008年(平成20)、とびしま海道

が全開通し、サイクリストたちが日

日に訪れるようになった御手洗。実は

この町に今から一世紀以上前に、勇猛

果敢にも自転車で世界一周無錢旅行を

成し遂げた男がいる。そして平成26年

の今、明治の冒険家、中村春吉エピソードは少しづつ広がっている。

不思議なことに、ここまで偉大な冒険家なのに、なぜか過去にあまり語られなかつた。今回のみたらい通志20号ではこの明治の冒険家、中村春吉の御手洗での日々について紹介したい。

中村春吉の世界一周ルート

ニューヨーク
ボストン
フィラデルフィア
ワシントン
サンフランシスコ
ハワイ



天満宮にある日本初の「自転車による世界一周冒険旅行者」を称えた中村春吉碑。
2008年、重伝建を考える会により建立。



春吉のエピソードを聞かせて頂いた山田隆幸さん。山田さんの自宅のお隣りが春吉邸。赤ん坊の頃、春吉さんの膝の上でお漏らしをしてしまったともあったという(笑)。

世界一周後、 御手洗で過ごす

編集室では、春吉邸の隣りに住んでいた元表具屋の山田隆幸さん(86歳)に話を聞いた。山田さんは1928年(昭和3)、春吉が56歳。ちょうど東京から御手洗に帰つて来た年に生まれたことになる。

「家が隣りなので小さな頃から可愛がつてもらいました。よく春吉さんは冒険家とか変人とか言われていましたが、私にとっては、優しいお爺さんのイメージです」また、こんなエピソードも。「小学校の頃、蛭子神社の前に外国のヨットが入つて来ることがあるんです。この時も春吉さんが、ちょっと待つとけようと、すぐヨットに乗り込み、みんなに通訳してくれました。凄い行動力です。大柄な外国人とペラペラと話すんですよ。子ども心にこの爺さん只者ではない、というのがよく分かりました」さすが世界一周した春吉は語学が堪能。社交的で英語だけでなくフランス語も得意だったそうだ。戦前の御手洗にこんな国際人がいたことが誇り高い。



中村春吉プロフィール

1871年(明治4)御手洗生れ。12歳で朝鮮半島の無銭旅行を試む。22歳でハワイに移住。帰国後、下関に英語塾を開く。1902年(明治35)、自転車による世界一周無銭旅行に出発。その後「靈動法」という精神医療の普及に努め、関東大震災で被災者の治療にあたり、東京四谷に中村靈動治療所を開設。1928年(昭和3)56歳で御手洗に帰り、天満宮横に自宅兼診療所を設ける。1945年(昭和20)、74歳で永眠。

軍事探偵では?

帰国後も何度も満州や朝鮮へ出かけた春吉。日露戦争という時期のため、何らかの関係があると推測されるが、春吉自身は否定。

携行品はどんな物?

荷物は自転車のあらゆるところに縛りつけた。食料品は米、塩、砂糖、うどん粉、梅干、鰹節、高野豆腐等。その他テント、日の丸旗等。

危険なことは?

インドでは狼に囲まれ、油を染み込ませた高野豆腐に火をつけ一晩中振り回し、難を逃れた。また黒豹を撲殺し、その肉で飢えを凌いだとか。



治療中の春吉。「タイッ!」と氣を入れるのでタイの先生と呼ばれていた。いつも白い神主さんのような衣装を身にまとっていた。



昭和3年、春吉邸新築の写真。洋館造りで靈動法の治療院だった。写真中央、座っているのが春吉。お弟子さんや町の人々が集まっている。



昭和16年夏、御手洗でボランティアをする春吉(写真右)とお弟子さんと子どもたち。天満宮前で。向こうに見えるのは若胡子屋。



なぜ、世界一周か?

海外貿易の仕事に携わろうと思い、その前段階で海外事情に精通したかった。それと世界を何でも見てやろうという好奇心から。

なぜ、自転車か?

徒歩では時間がかかりすぎる。馬は餌代がかかる。自動車は燃料が必要。残るは自転車しかない。春吉が使ったのは米国製ランブラー。

なぜ、無銭旅行か?

無銭旅行での世界一周は前例がないので意義がある一と考えたから。自分の力を試したかった。結局、沢山の人に助けられた。

御手洗での中村春吉
ボランティアに治療院、
晩年を故郷で過ごす春吉翁

みたらい通志バツクナンバー

本誌バックナンバー全20号は、今後、重伝建を考える会のホームページからでもご覧いただけるよう、ただいま調整中です。



NO.1 (1996.12発行)
特集:「96御手洗やぐら祭り」



NO.2 (1997.8発行)
特集:「御手洗小学校100年記念」



NO.3 (1998.8発行)
特集:「みたらいと北前船」



NO.4 (1999.6発行)
特集:「乙女座懐古録」



NO.5 (2000.3発行)
特集:「俳句をめぐる旅」



NO.6 (2000.10発行)
特集:「潮待館誕生」



NO.7 (2001.3発行)
特集:「黒田杏子と楽しむ句会」



NO.8 (2001.10発行)
特集:「島の時計屋さん」



NO.9 (2002.2発行)
特集:「ゆたかまち発見レポート」



NO.10 (2002.9発行)
特集:「御手洗の盆踊り」



NO.11 (2003.3発行)
特集:「島の匠が語る港町『御手洗』」



NO.12 (2003.10発行)
特集:「広島大学土蔵調査六人衆に聞く」



NO.13 (2004.2発行)
特集:「御手洗のエジソン」



NO.15 (2005.3発行)
特集:「御手洗詣 三社めぐり」



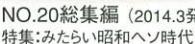
NO.14 (2004.10発行)
特集:「10周年記念『御手洗めぐり』」



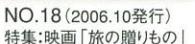
NO.15 (2014.3発行)
特集:「みたらい昭和・ヘン時代」

NO.16 (2005.7発行)
特集:「ニッポン全国御手洗マップ」

NO.17 (2006.2発行)
特集:「御手洗の歩き方」



NO.19 (2007.3発行)
特集:「御手洗詣 三社めぐり(付録:みたらい美人ボスター)」



NO.20 総集編 (2014.3発行)
特集:「みたらい昭和・ヘン時代」



NO.20 (2008.10発行)
特集:「映画『旅の贈り物』」



● 1994年6月

はじめて御手洗に行った。

クルクルと路地を巡り、足長

小学生の標識を発見。その後、

見たらい町『御手洗マップ』で

紹介した。ただ2007年頃、とつ

ぜん行方不明に。「あんた復元し

てくれや」と長浜さんに頼まれ、

復刻版を作った。

● 1995年10月

句のページを絶対に入れにやあ

いけんで。この町は俳句の町いや

けえのう『みたらい通志の創刊の

頃、長浜さんからよく言われた。

今崎さんや里信さん、土肥さんら

と置屋の2階によく集つた。

● 1995年10月

重伝建選定記念モニュメントのデ

ザインを担当した。元住吉神社の

太鼓橋の石を使うということで、

小桜石材さんと現地調査に行く。

帰りにみはらし食堂で一杯やつた。

映画『旅の贈り物』が広島市のサロ

ンシネマにて封切られた。初日は

主演女優の櫻井淳子さんや監督も

駆けつけた。

上映後、長浜

さんの快気祝

いも兼ねて今

崎さんらと昼

間から鷹野橋

で一杯やつた。

なんと深いご縁だろう！ 最後の

19号を発行したのが2007年。

あれから7年。まさか20号を手が

けるとは。御手洗という縁に感謝。

(編集人 小原きよ吉)

■ きよ吉の編集日記より

● 2014年3月

なんと深いご縁だろう！ 最後の

19号を発行したのが2007年。

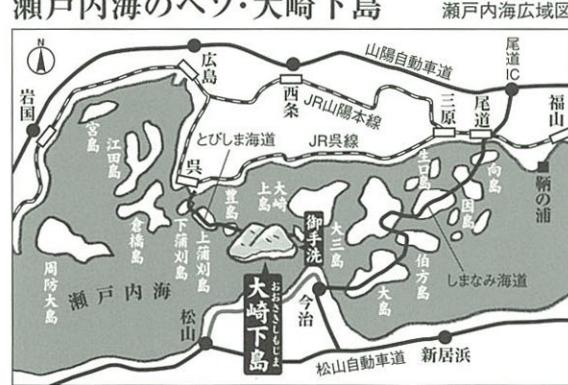
あれから7年。まさか20号を手が

けるとは。御手洗という縁に感謝。



昭和20年代後半、荒神社の裏山より御手洗港方面を望む

瀬戸内海のヘソ・大崎下島



観光案内 <観光の問合せ・ガイド申込等>

■呉市豊町観光協会 TEL・FAX 0823-67-2278

MITARAI Since 1666

寛文6年(1666)町屋敷割りを藩より許され、人家が建ちはじめる
正徳3年(1713)町年寄り(大長村の統轄下)が置かれる

宝暦9年(1759)常盤町を中心とした大火(11月)

文化3年(1806)伊能忠敬が御手洗を測量した(3月1~3日)

5年(1808)町庄屋が独自に置かれる(初代柴屋)

文政9年(1826)シーボルトが寄港する

11年(1828)千砂子波止の築造(11~12年)

11~13年 住吉神社造営(大坂 鴻池善右衛門寄進)

(1828~30)※千砂子波止の築造以後、住吉町の埋立てが進んだ

嘉永6年(1853)吉田松陰が長崎行きの途中に立ち寄る

元治1年(1864)三条実美ら五卿が多田勘右衛門宅(竹原屋)

に寄寓する(7月22日~24日)

明治12年(1879)御手洗町が大長村より独立

昭和31年(1956)1町2村合併して豊町となる

平成6年(1994)国選定 重要伝統的建造物群保存地区となる

平成17年(2005)1市8町合併して呉市となる

平成26年(2014)重伝建地区選定20周年・「みたらい通志」20号発行

※平成25年度豊町振興会まちづくり事業費助成事業